

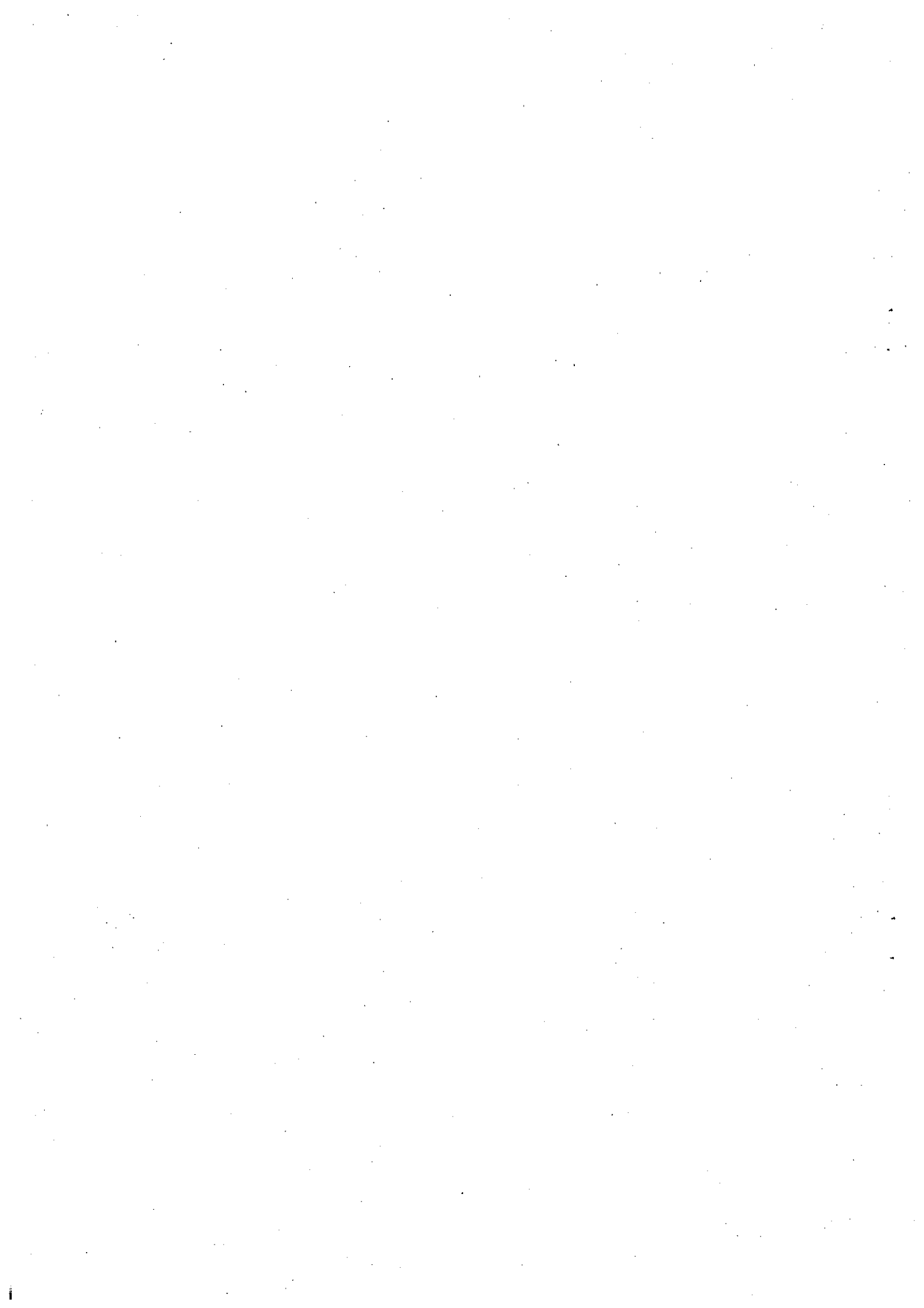
総務教育常任委員会資料

(平成28年11月28日)

〔 件 名 〕

- ・ 眞子内親王殿下の御来県について 【総務課】・・・1
- ・ 「鳥取和牛フェア」について 【東京本部】・・・2
- ・ 首都圏における情報発信について 【東京本部】・・・3
- ・ 関西圏における情報発信について 【関西本部】・・・5
- ・ 名古屋における情報発信等について 【名古屋代表部】・・・7
- ・ 平成28年度県政モニタリング事業に係る第3回モニター会議
の開催について 【業務効率推進課】・・・9
- ・ 第3回県有施設・資産有効活用戦略会議の開催結果について
【業務効率推進課・財源確保推進課】・・・10
- ・ 鳥取県中部地震復興がんばろう寄附金（ふるさと納税による被災地支援）
の受入について 【財源確保推進課】・・・14

総 務 部



眞子内親王殿下の御来県について

平成28年11月28日
総務課

眞子内親王殿下は、去る10月29日（土）から10月30日（日）まで「東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者アートフェスタ2016」に御臨席されるとともに、鳥取県中部地震の被災状況を御聴取されました。

10月29日（土）には、米子市の障害者支援施設もみの木園を御訪問された後、皆生グランドホテル天水で行われた「東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者アートフェスタ2016 がんばろうの集い～鳥取県中部地震を乗り越え、障がい者とともに生きる社会を目指して～」に御臨席されました。

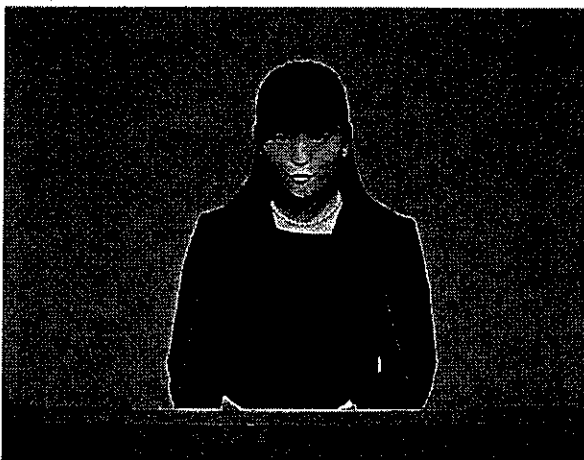
10月30日（日）には、鳥取県立米子コンベンションセンターで行われたオープニングセレモニーへ御臨席され、また障がい者の舞台発表及びアール・ブリュット展を御覧になりました。



障害者支援施設もみの木園 御訪問
（10月29日）



がんばろうの集い 御臨席
（皆生グランドホテル天水 10月29日）



オープニングセレモニー おことば
（鳥取県立米子コンベンションセンター 10月30日）



アール・ブリュット展 御覧
（同左）

「鳥取和牛フェア」について

平成28年11月28日
東 京 本 部

とっとり・おかやま新橋館を拠点とした「鳥取和牛フェア」の取組について、以下のとおり報告します。

1 鳥取和牛フェアの実施

- 県産食材の首都圏における販路拡大・ブランド化を推進するため、銀座・新橋エリアのレストランで鳥取和牛の様々な料理を味わうことができる「鳥取和牛フェア」を11月15日（火）から29日（火）まで開催しています。
- 使用する県産食材は、とっとり・おかやま新橋館がPR用の装飾を施した専用自転車を使って、各飲食店へ直接お届けしています。
- フェアの開催に先立ち、銀座・新橋エリアの飲食店を対象に、10月20日（木）首都圏の有名料理人（分けとく山総料理長 ^{のぎきひろみつ} 野崎洋光氏）を講師とし、鳥取和牛をはじめとした県産食材の特長・魅力をPRするセミナーを開催しました。



2 とっとり・おかやま新橋館での「鳥取和牛ランチフェア」

- 鳥取和牛ランチフェアの開催に先立ち、首都圏の一般消費者を対象として、同館にて、11月29日（火）野崎洋光氏監修鳥取和牛ランチの試食会及び県産食材の特長・魅力をPRするセミナーを開催します。
- 鳥取和牛フェアの一体的な取組として、とっとり・おかやま新橋館2階飲食店舗では、11月30日（水）から12月13日（火）まで、鳥取和牛をはじめとした県産食材をふんだんに使った特別メニューを提供します。

※ランチフェアの内容

鳥取和牛を使った主菜、その他県産食材（ねばりっこ、白ねぎ、椎茸等）を使った副菜などで構成される料理（分けとく山総料理長 野崎洋光氏監修）を、県内窯の焼き物に盛り付けて1日10食限定で提供。

首都圏における情報発信について

平成28年11月28日
東京本部

首都圏における情報発信（風評被害払拭）の取組について、以下のとおり報告します。

1 鳥取県知事による風評被害払拭・被災生産者応援トッププロモーション ～鳥取県中部地震復興がんばろうプロジェクト～

知事、とっとり元気復興キャラバン隊の旅館の女将、温泉旅館関係者、梨生産者らが支援へのお礼を述べ、地震で落ちた梨の試食を呼びかけ、落ちた梨、落ちなかった梨及び観光のPRを行った。

とっとりふるさと大使等（みよーちゃん、上田まりえ、コナン（着ぐるみ））も応援に駆けつけた。



- (1) 日時 10月27日（木）12時30分～13時
- (2) 場所 とっとり・おかやま新橋館1階エントランス



2 新橋SL広場・全国交流物産展での復興キャラバン

知事、倉吉市長、三朝町長、湯梨浜町長、北栄町長、鳥取県観光連盟会長、鳥取県旅館組合理事長、皆生温泉旅館組合、コナン（着ぐるみ）が震災支援へのお礼を述べ、鳥取県が元気であることや、10月26日から、青山剛昌ふるさと館が再オープンしたことなどをPRし、今後とも鳥取県を応援してほしいとお願いした。

- (1) 日時 10月27日（木）13時10分～13時20分
- (2) 場所 新橋SL広場



※北栄町が港区と交流しているため、港区に地震で落ちた梨約2,200個を購入していただき、学校給食での提供や、10月27日～28日に開催された「全国交流物産展 in 新橋」の北栄町ブースなどで配布していただいた。また、11月4日には港区長から見舞金及び義援金が贈呈された。

3 松葉がに・親がに解禁！風評被害払拭 鳥取県知事トッププロモーション ～鳥取県中部地震復興がんばろうプロジェクト～

知事、倉吉農業高等学校生徒4名らが来館者へかに汁をふるまい、被災者への義援金募集を呼びかけた。

- (1) 日時 11月12日(土) 15時20分～15時50分
- (2) 場所 とっとり・おかやま新橋館 1階エントランス



4 鳥取県中部地震復興プロジェクト「合格まちがい梨」販売の知事トッププロモーション

知事、梨生産者が王秋梨の試食を呼びかけ、倉吉市の観光地「白壁土蔵群赤瓦」のイメージキャラクター「くらすけくん」のパッケージに、地震で落ちなかった梨、三徳山三仏寺のお守り、開運八社巡りの手ぬぐいを詰め込んだ縁起物セット（金額：税込3,939円（さくらさく））のPRを行った。

- (1) 日時 11月15日(火) 11時～11時15分
- (2) 場所 日本橋三越本店 本館地下1階 店舗前
(東京都中央区日本橋室町)



5 観光PRキャラバン隊 テレビ生出演

三朝温泉旅館組合や鳥取中部観光推進機構のキャラバンに同行し、テレビ生出演やマスコミ訪問等の調整を行い、鳥取県が元気であることを発信した。

- (1) 東京MXテレビ「5時に夢中！」(11月7日放映)
出演者 三朝温泉旅館組合
- (2) 千葉テレビ「シャキット！」(11月8日放映)
出演者 鳥取中部観光推進機構

6 日本百貨店でのPR

日本全国から日本の優れた物を集めて販売している日本百貨店にて、観光PR、「落ちなかった梨」試食販売を行い、店舗内の特設コーナーにて県産食品の販売を行った。

- (1) 日時 11月26・27日(土・日)
- (2) 場所 日本百貨店(秋葉原)

関西圏における情報発信について

平成28年11月28日
関 西 本 部

関西圏における観光情報発信等の状況について、以下のとおり報告します。

1 観光PRの取組状況

(1) JR大阪駅での鳥取県PR【実施済】

風評被害の払拭と被災した梨生産者応援のため、知事によるトッププロモーション「とっとりで待っています!!」キャンペーンを実施しました。

- ① 日 時：平成28年10月28日（金）正午から午後4時まで
- ② 場 所：大阪ステーションシティ2階「アトリウム広場」
- ③ 参加者
知事、とっとり観光親善大使、とっとりふるさと大使「桂まん我」さん（落語家）
梨生産関係者、旅館関係者、交通関係者
- ④ 内 容
 - ・知事メッセージ（県内の状況説明、観光PR）
 - ・とっとりふるさと大使「桂まん我」さんの応援メッセージ
 - ・観光、農業、交通関係者によるPR
 - ・訳あり梨「王秋」の試食会、松葉がに・梨が当たる抽選会、お客様と一緒に写真撮影 等



(2) 京都・西京極スタジアムでの観光PR【実施済】

J2京都サンガ「ファミリーイナダSPデー」(VS 愛媛FC) にテントブースを出展し、冬の観光PR等を行いました。

- ① 日 時：平成28年11月12日（土）午前11時から午後2時まで
- ② 場 所：西京極スタジアム（京都市左京区）
- ③ 内 容
 - ・ウェルカニキャンペーン実施告知や県内の観光施設、ホテル・旅館など観光PR
 - ・スキーやスノーボードなど大山のウィンタースポーツと大山ホワイトリゾートを紹介
 - ・日本遺産「大山」のPR展示

(3) 旅行会社、マスコミへの風評被害払拭キャラバン

関西本部や中部地域の観光関係者などが中心になり、関西地区の旅行会社やマスコミへのPR活動を行いました。

項目	日時	訪問先	参加者
鳥取県観光関係案内所連絡会による集中キャラバン	10月31日(月) ～11月11日(金)の6日間	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県内の旅行会社	鳥取県観光案内連絡所(白兎会)に加盟する在阪会員
旅行会社への鳥取中部元気プロモーション	11月10日(木)	近畿日本ツーリスト、日本旅行、クラブツーリズム、JTBなど	一般社団法人鳥取中部観光推進機構
マスコミへの風評被害払拭・誘客キャラバン	11月17日(木) 18日(金)	朝日新聞、産経新聞、毎日新聞、読売新聞、大阪日日新聞など12社	三朝温泉旅館組合、はわい温泉・東郷温泉旅館組合、米子市、県観光連盟

2 県内産品の販路拡大に係る取組状況

(1) 百貨店での倉吉産新興梨のPR [実施済]

倉吉産新興梨の試食宣伝販売を10月28日(金)の「とっとりで待っとなります!!」キャンペーンにあわせて、梅田の百貨店で実施しました。

- ① 実施日：平成28年10月28日(金)～30日(日)
- ② 場所：阪急うめだ本店、阪神梅田本店
- ③ 内容

- ・倉吉産新興梨を110箱試食・販売しました。
- ・多くのお客様から、「美味しい、ジューシー」と大変好評で、両店とも完売しました。
- ・お客様から、「10月28日(金)に放送されたテレビを見て、買いに来た。」「震災の復興に頑張ってください。」との声がありました。

(2) 百貨店・量販店等での松葉がにのPR

本格的な松葉がにのシーズンを迎え、鳥取県産の農水産品の販売促進を図るとともに、元気な鳥取県のPRを行いました。

項目	日時	場所	内容
第5回鳥取県フェア松葉がに祭りIN堺	11月19日(土)	堺中央総合卸売市場	松葉がに・親がに、白ネギ・大山ブロッコリーの試食販売等
(株)光洋「鳥取県フェア」	11月20日(日) ～21日(月)	KOHYO、PEACOCK STORE、MaxVale 約60店舗	松葉がに、親がに、白ネギ、王秋梨など試食宣伝販売等
30回記念OBCラジオまつり	11月23日(水)	大阪城公園太陽の広場	かに汁の販売、ウエルカニキャンペーンのPR等
阪神梅田本店での「鳥取県松葉がにの日」	11月26日(土)	阪神梅田本店	松葉がに試食宣伝販売、ウエルカニキャンペーンのPR等

名古屋における情報発信等について

平成28年11月28日
名古屋代表部

1 鳥取県の観光PR等の取組状況

(1) 刈谷ハイウェイオアシスでの鳥取県PR【実施済】

入場者数全国3位の遊園地としても紹介され、行楽客や地元の方々など多くの利用者で賑わう刈谷ハイウェイオアシスで、鳥取県の旅の魅力や鳥取県中部地震の風評被害払拭のためのPRを行いました。

- ・日程：11月5日(土)、6日(日)
- ・場所：伊勢湾岸自動車道刈谷ハイウェイオアシス(愛知県刈谷市 ※年間利用者数約800万人) 広場
- ・主催：名古屋代表部、鳥取県観光連盟
- ・内容：ミニゲーム(カニの甲羅投げなど)、観光資料の配付や風評被害払拭のため三朝温泉の女将連による鳥取県PRポスターの掲示を行いました。



(2) JR名古屋駅を中心に鳥取県をPR【実施済】

中京圏で最も利用者が多い名古屋駅を中心に鳥取の冬を代表する味覚の王者「松葉がに」と元気な鳥取県をPRしました。

① JR名古屋駅での鳥取県PR

- ・日時：11月12日(土)～13日(日) 10時～18時
- ・場所：名古屋駅中央イベントスペース
- ・主催：名古屋代表部

○内容

- ・11月13日(日)には鳥取県出身男子バレーボール日本代表山本隆弘^{やまもとたかひろ}氏にも参加していただき、鳥取県での思い出を語る形で鳥取砂丘、松葉がになどを紹介いただくとともに、風評被害払拭のため「とっとりで待っとなります!!」をPRし大いに盛り上がりました。
- ・この他にも、とっとり観光親善大使、鬼太郎やコナンによるPRステージ等のイベントを実施するとともに、鳥取県PR資料を来場者に対し配布(2,000部)しました。
- ・JR名古屋駅の50面のデジタルサイネージを活用し、元気な鳥取県やイベントのPRを行いました。
- ・イベントの様子が地元中京テレビの夕方のニュースで放映され、広くPRを行うことができました。



② ジェイアール名古屋タカシマヤで鳥取県産「松葉がに」即売会も同時開催

- ・実施日：11月12日(土)～13日(日)
- ・場所：ジェイアール名古屋タカシマヤ(※名古屋駅の駅ビル) 地下2階 生鮮食料品売場
- ・内容：名古屋駅でのPRに併せて、「松葉がに」及び「親がに」の販売を行いました。両日とも多くのお客様が来店されましたが、特に初日は午前中に売り切れになるほど盛況でした。

(3) 旅行会社、マスコミへのキャラバンの実施【実施済】

鳥取県中部地域の観光関係者と、風評被害払拭のため旅行会社やマスコミへのPR活動を行いました。

- ・実施日：11月9日(水)
- ・訪問先：JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、中京テレビ、中日新聞 など
- ・訪問者：鳥取中部観光推進機構、三朝温泉観光協会、鳥取県観光連盟、名古屋代表部 など

2 その他の情報発信等

(1) 中京圏の企業経営者等による鳥取県産業視察【実施済】

中京圏の経済関係者等が参加する異業種交流組織「名古屋産業人クラブ・岐阜産業人クラブ」主催による「鳥取県産業視察」が初めて開催されました。

- ・日程：11月15日(火)～16日(水)
- ・参加者：中京圏のものづくり企業の経営者等13名
- ・概要：(株)イナテック鳥取(中京圏から鳥取県に進出)、鳥取県産業技術センター、岡山大学惑星物質研究所、鳥取砂丘、三徳山、白壁土蔵群・安謝瓦など産業・観光分野を中心に広く鳥取県の現況を視察いただきました。

【参考：産業人クラブ】

- ・地域産業の結束を通じてモノづくりを中心とした産業の発展に寄与することを目的に設立された異業種交流組織。日刊工業新聞社の支社、支局が事務局(全国に24組織：名古屋⇒名古屋支社、岐阜⇒岐阜支局)
- ・会員メンバーは中堅・中小企業の経営者、経営層や自治体など
(名古屋：会員数約160名、岐阜約60名)

平成28年度県政モニタリング事業に係る第3回モニター会議の開催について

平成28年11月28日
行財政改革局業務効率推進課

今年度から実施する「県政モニタリング事業」について、以下のとおり第3回モニター会議を開催し、対象テーマの関連事業に係る「効果が認められる点と課題」について、モニター間での意見交換を行いました。

今後、対象テーマの関連事業に係る「改善点と県民の参画」について、評価レポートの提出、意見交換を経て、翌年3月に意見をとりまとめ、公表するとともに、その後の事業実施や予算に反映することとしています。

1 日時、場所

- (1) 11月19日(土) 午後2時～4時30分 倉吉交流プラザ
テーマ1 国内観光誘客に向けた取組
- (2) 11月12日(土) 午後2時～4時30分 鳥取県立倉吉体育文化会館
テーマ2 自立した消費者育成のための消費者教育の推進

2 出席者

- (1) 県政モニター(公募) 11名(テーマ1の担当4名、テーマ2の担当7名)
- (2) コーディネーター 2名
 - ・鳥取大学 理事・副学長 細井由彦(ほそいよしひこ)氏 …テーマ1の担当
 - ・鳥取大学 地域学部地域政策学科 教授 藤田安一(ふじたやすかず)氏 …テーマ2の担当

3 県政モニターの主な意見

(1) テーマ1 国内観光誘客に向けた取組

- ① 「蟹取県へウエルカニ」誘客促進事業
 - ・「鳥取県=カニ(鳥取県へウエルカニ)」を情報発信の切り口とした誘客キャンペーン、情報発信等
- ② 着地型観光・体験情報発信事業
 - ・日本最大級のレジャー体験予約サイト上に「鳥取県着地型観光案内窓口」を設置して行う情報発信、観光誘客
- ③ ニューツーリズム普及促進事業補助金
 - ・ニューツーリズム(エコツーリズム、グリーンツーリズム等)に取り組む団体の活動に対する助成

事業	効果が認められる点	課題
①	・誘客に加えて特産品のアピールになるので良い。	・「蟹取県ウエルカニキャンペーン」のパンフレットの情報量が多すぎて分かりにくい。
②	・日本最大級の既設サイトを活用することで、体験観光等への関心の高い人に対して効果的に情報発信できている。	・砂丘のイベントが多く他地域の情報が少ない。 ・サイトを知らない人にどのように情報発信するのが課題となる。
③	・体験型観光はこれからの観光の主流となるので、取り組んでいる団体の活動への支援は良い。	・助成した団体の活動について、県からの情報発信が不足している。

(2) テーマ2 自立した消費者育成のための消費者教育の推進

- ① 消費者教育推進事業
 - ・大学等と連携した啓発講座の実施、団体や高校等への啓発講座の講師派遣、ラジオ・新聞での啓発・広報等
- ② 社会と未来を思いやる21世紀型の消費者育成事業(将来の賢い消費者育成のためのネットワークづくり)
 - ・学校現場での指導方法等の検討、消費者教育支援員による学校現場との連携、授業で活用する資料・教材の作成等
- ③ 社会と未来を思いやる21世紀型の消費者育成事業(子ども等へのエシカル消費の普及啓発)
 - ・子ども等を対象とした普及啓発イベント(夏休み「子どもエシカル・ラボ」、「とっとりエシカル・マルシェ」)の実施等

事業	効果が認められる点	課題
①	・各種広報等により啓発講座の参加者数が増えている。	・県内の講師のほか、県外の講師も活用しているが、県外の講師では県内の消費者被害の現状が反映されにくい。
②	・学校・地域・行政が連携したネットワークを作って取り組む姿勢は良い。	・ネットワークや教材が具体的にどう活用されるのか発信されていない。
③	・エシカル消費の必要性は高い。 ・子供の頃から学ぶのは良い。家庭の中からの浸透も期待できる。	・エシカル消費の定義が広範で分かりにくいいため、考えが浸透していない。

第3回県有施設・資産有効活用戦略会議の開催結果について

平成28年11月28日
行財政改革局業務効率推進課
行財政改革局財源確保推進課

県有施設・資産の適正管理、戦略的活用の方策などを検討するため設置している「県有施設・資産有効活用戦略会議」の第3回会議を下記のとおり開催しました。

記

1 日 時 平成28年11月22日(火) 午前11時～正午

2 場 所 県庁特別会議室

3 出席者 副知事(座長)、各部局長等

4 概 要

(1) 美術館整備に係るPFI手法導入検討

現在、教育委員会において検討が進められている美術館について、「鳥取県PPP/PFI手法活用の優先的検討方針」に基づき、PFI手法導入の第一次検討(庁内での定量評価及び定性評価)を実施し、PFI手法の導入によりコスト削減が9.5%程度期待できるなどの評価結果を踏まえ、美術館を整備することとなった場合には、PFI手法を活用することが適当であると決定した。

今後、美術館整備を進めることが決まれば、外部専門家によるPFI導入可能性調査を行うなど第二次検討を実施することとなる。

(2) 公の施設の管理運営

県直営としている公の施設について、施設の点検を踏まえて提示した総務部提案を踏まえて、各部局において具体的な検討や方針整理を行うことを申し合わせた。

(3) 県有未利用財産の有効活用に係る取組方針

未利用財産について、県や市町村での行政利用がない場合は売却するという従来の方針を原則としつつ、売却が困難なものについては、貸付等による利活用にも積極的に取り組んでいく方針を申し合わせた。

5 今後の予定

○県直営の公の施設について、総務部からの運営方法の見直し提案を踏まえて、各部局において具体的な検討を行う。

・民間活力導入の検討を進める施設：平成29年9月を目処に具体検討・方針整理

・その他の施設：個別に状況を踏まえて方針を検討・整理

○平成29年春に次回会議を開催し、公の施設の管理運営の見直しの検討状況や未利用財産の活用について状況を確認するとともに、平成29年度の取組について検討を行う。

PPP・・・Public Private Partnership の略。官民連携のこと。公共的な社会基盤の整備や運営を、行政と民間が共同で効率的に行おうとする手法をいう。

PFI・・・Private Finance Initiative の略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法をいう。国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業について実施される。

鳥取県PPP/PFI手法活用の優先的検討方針に基づく評価

1 定量評価

	従来型手法の費用等(PSC)(公共施設等の管理者等が自ら整備等を行う手法)	採用手法の費用等(候補となるPPP/PFI手法)
整備等(運営等を除く)費用	89.0 億円	80.1 億円
《算出根拠》	美術館基本構想検討委員会資料(建設費 85 億円)及び営繕課資料(設計(基本・実施)及び工事監理委託料 4.0 億円)	従来型手法より 10%削減の想定(H25・26 内閣府調査の平均削減率)
運営等費用	77.8 億円	70.0 億円
《算出根拠》	美術館基本構想検討委員会資料(389 百万円/年)	従来型手法より 10%削減の想定(H25・26 内閣府調査の平均削減率)
利用料金収入	5.6 億円	6.2 億円
《算出根拠》	美術館基本構想検討委員会資料(28 百万円/年)	従来型手法より 10%増加の想定(H25・26 内閣府調査の平均増加率)
資金調達費用	9.5 億円	16.0 億円
《算出根拠》	89 億(整備費用)×75%(起債充当率)×起債利率 1.3%・償還期間 20 年の元利金等償還	公共が自ら資金調達した場合の利率に 0.5%ポイントを上乗せ
調査等費用	—	0.25 億円
《算出根拠》		導入可能性調査の費用及びその後の業務委託の費用
税金	—	0.03 億円
《算出根拠》		各年度の損益に法人実効税率 32.11%を乗じて算出
税引き後損益	—	0.06 億円
《算出根拠》		EIRR(資本金に対する配当等の利回り)5%以上確保されることを想定
合計	170.7 億円	160.3 億円
合計(現在価値)	136.9 億円	123.8 億円
財政支出削減率		VFM は 13.1 億円 9.5%
交付税措置		19.2 億円
その他(前提条件等)	事業期間 20 年間 割引率 2.6%	

2 定性評価

項目	内容
<p>a 住民サービスの向上</p> <p>（民間能力の活用により、多様なニーズに対応した事業実施など、住民サービス向上が見込まれるか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間のノウハウやネットワークの活用により、利用者にとって魅力的で多彩な事業展開、接遇改善による施設の魅力向上等が図られ、利用者ニーズに応じた低廉で良質なサービス提供が可能になると期待。
<p>b 管理運営の効率化</p> <p>（民間の業務運営手法を活用した迅速な業務処理により、管理運営の効率化が見込まれるか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計・建設から管理運営まで一括して民間事業者に任せるため、各業務毎に発注する場合に比べ、迅速な事務処理による管理運営の効率化を期待。 ・事業の計画段階で予め発生リスクを想定し、その責任分担を公共及び民間事業者の間で明確にすることで、問題発生時の迅速・適切な対応が可能となるので、業務の円滑遂行や安定した事業運営を期待。
<p>c 新たな発想の活用</p> <p>（新たな発想（事業計画）による事業展開、利用促進が見込まれるか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間のノウハウやネットワークを活用した事業者の創意工夫等により、年度予算に縛られずに、集客力のある事業を展開したり、広報宣伝を強化することが可能となるので、施設の魅力を向上させて利用を促進し、収益を増加させることも期待。 ・なお、公共施設等運営権制度（コンセッション制度）を導入することで、さらに民間事業者の意欲や自由度を高めることができないか検討が必要。
<p>d 施設の目的・機能</p> <p>（利用者の安心感や信頼性の確保、所有する情報の保護、市町村との連携等を図る観点から見て、施設の目的・機能は十分に達成・発揮されるか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初から、公共施設としての目的・機能や官民の役割分担が明確に示されるとともに、その後も、事業の実施状況、提供サービスの水準が厳しくモニタリングされるので、美術館の目的・機能が十分に達成・発揮されると期待。 ・学芸部門の業務には、美術関係資料の収集、保管、展示及び調査研究や地域や学校と連携した教育普及活動があることから、引き続き、従来の直営体制で担うべき部分があるか検討が必要。
<p>e 県の関与の必要性</p> <p>（行政機関としての性格が強く、直営で行うべきもの又は施設目的の再検討により県の直接関与を強めるべきものではないか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館の業務は、基本的に公権力の行使に係るものではなく、その意味で行政直営が求められるものではない。
<p>f 個別の法律による制約</p> <p>（個別の法律により管理主体に対する制約が大きいものではないか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館法上の(登録)博物館であるためには、その制約は学芸員の設置や年間150日以上の開館等の条件があるが、民間事業者に運営を任せることの制約とはならない。

公の施設の今後のあり方について

1 考え方

公の施設においては、環境変化に対応して良質な県民サービスの提供を行うため、民間活力を導入し、地域経済の活性化を図るとともに、施設の機能強化と運営の効率化を進めてきたところである。

現在、県の直営としている27の施設について、厳しい財政環境の中で、持続可能な体制で多様化する県民ニーズにしっかりと対応するため、各施設のあり方を検討・整理する。

※その他36の公の施設は指定管理者制度導入済み。(県営住宅は管理代行)

2 今後の検討の方向性(案)

【民間活力の導入による一層の機能強化と管理業務等の効率化を検討する施設】10施設

○かにっこ館・鳥取港パーク

・過去に指定管理者制度導入を見送った経過があるが、集客・係留施設の運営においては、民間ノウハウの活用は有効であり、民間主導での周辺地域と連携した地域振興や運営の効率化に向けて、改めて導入の検討が必要な施設。

○海と大地の自然館・二十一世紀の森・むきばんだ史跡公園・博物館

・普及啓発及び管理業務への民間ノウハウの活用は有効であり、県の関与が必要な学芸部門、試験研究、発掘業務等は県が担いながら、民間の得意とする情報発信・管理部門を強化するため、部分的な指定管理者制度の導入の検討が必要な施設。

○鳥取空港

・鳥取砂丘コナン空港の国内線ターミナルと国際会館の一体的活用が可能となる空港ターミナルビルの一体化整備に併せて、空港機能の強化と賑わい創出を図るため、民間活力を活用したコンセッション方式の導入などの検討が必要な施設。

○国際交流センター

・現在、鳥取空港の国際会館の中にスペースを設けて運営されているが、鳥取空港ターミナルビルの施設整備の状況を踏まえて、新たな拠点を設ける場合には、指定管理者制度の導入の検討が必要な施設。

○産業人材育成センター(倉吉校・米子校)

・当面は、両校の総務管理部門について、一体的に指定管理者制度を導入することで効率化を図ることができないか検討が必要な施設。
・ニーズを踏まえて訓練課程を機動的に設定することは有意義であることから、将来に向けて、指導部門への指定管理者制度の導入に向けた研究が必要な施設。

【施設のあり方を継続して検討する施設】17施設

県民ニーズや周辺環境の変化を踏まえ、将来に向けて良質な行政サービスが提供できるよう、持続可能な運営体制のあり方について個々に検討を深めていく施設。

公文書館、男女共同参画センター、総合療育センター、鳥取療育園、中部療育園、皆成学園、鳥取看護専門学校、倉吉総合看護専門学校、歯科衛生専門学校、精神保健福祉センター、喜多原学園、衛生環境研究所、米子駅前だんだん広場、農業大学校、図書館、中央病院、厚生病院

3 今後の進め方

民間活力導入の検討を進める施設(10施設) →平成29年9月を目処に具体検討・方針整理
その他の施設(17施設) →個別に状況を踏まえて方針を検討・整理

鳥取県中部地震復興がんばろう寄附金（ふるさと納税による被災地支援）の受入について

平成28年11月28日
財源確保推進課

鳥取県中部地震による被災地支援のために受付を開始しました「鳥取県中部地震復興がんばろう寄附金」について、次のとおり報告します。

1 概要

- 被災地住宅の修繕など、被災地の復旧と復興のための財源として活用する。
- 県ホームページ「とりネット」及び民間ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」から申込みが可能である。
- クレジットカード決済、ゆうちょ銀行払い込みに対応している。
- 災害支援を目的としており、お礼の品はお送りしない。

2 受入状況

件数：741件 金額：43,849,947円

	災害支援寄附金	(参考) 通常分も含めたふるさと納税の合計 (H28年度)
件数	741	6,032
金額 (円)	43,849,947	146,980,947

※11/23(水)までに申込みのあったもの。法人からの寄附を含む。

3 取組状況

「鳥取県中部地震復興がんばろうプロジェクト」の一環として、引き続き、全庁をあげて県ゆかりの方への呼びかけやイベント等でのPRを行い、鳥取県への支援を募っていきます。

- 個別の働きかけ
 - ・高等学校の同窓会に会員への働きかけ（同窓生へのチラシ送付、ホームページ掲載等）を依頼する。また、同窓会に出席し個別に依頼する。
 - ・過去のふるさと納税寄附者（約3万人）へチラシを送付し寄附を呼びかける。
 - ・各鳥取県人会員へ依頼する（県人会の場合、チラシ送付等）。
 - ・県ゆかりの企業等を訪問し依頼する。
 - ・東京本部・関西本部等メールマガジンで寄附を呼びかける。
- イベントなどでチラシ配布
 - ・各イベント来場者へチラシを配布する。
 - ・アンテナショップとっとり・おかやま新橋館利用者へチラシを配布する。
 - ・県内宿泊施設、長距離バス等へのチラシの配架を行う。
- 新聞等への広告掲載
 - ・新聞（全国紙）、地域コミュニティ紙等への広告掲載を行う。
- ホームページ
 - ・民間ふるさと納税専用サイトに支援コーナーを開設する。
 - ・本寄附専用ページを作成し、とりネットトップページより誘導する。また、とっとり花回廊、とりぎん文化会館等のホームページにリンクを掲載する。
- 著名人PR
 - ・県中部出身の女性デュオ「ペペ」によるコンサート等での寄附の呼びかけを行う。
 - ・著名人による応援メッセージをホームページに掲載する。

<参考>

- 見舞金（担当課：福祉保健課）

件数：6件 金額：1,250,000円

※岩手県、徳島県、東京都港区、同議会、大阪府守口市、同議会

- 鳥取県中部地震災害義援金（担当課：福祉保健課）

件数：1,091件 金額：35,978,747円

※11/20(日)現在で、日赤鳥取県支部、(福)鳥取県共同募金会、県の指定口座への入金を確認したもの。